



©Geoffroy Schied

音楽の極みを探求し続ける求道者、内田光子。 2020年秋、最高のパートナーであるマーラー・チェンバー・オーケストラと奏でる 唯一無二のモーツァルト、その圧倒的な世界観。

PROFILE

ピアノ：内田光子 *Mitsuko Uchida, Piano*

内田光子は、真実と美の姿を独自に追求しながら、自らが奏でる音楽の世界を深く掘り下げている演奏家である。モーツァルト、シューベルト、ベートーヴェンの作品の解釈で高い評価を受ける一方、ベルク、シェーンベルク、ウェーベルン、ブーレーズなどの作品に光を当て新しい世代の聴衆に紹介している。

クリーヴランド管との共演は100回を超えるほか、長年にわたりシカゴ響、ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、バイエルン放送響、ロンドン響、ロンドン・フィルなどの世界の主要オーケストラとの共演を重ね、ハイティンク、ヤンソンス、ムーティ、ラトル、エサ=ペッカ・サロネン、ドゥダメルといった世界的な指揮者との共演も多い。

2016年からアーティストック・パートナーとなっているマーラー・チェンバー・オーケストラと、ヨーロッパと北米での5年間のツアープロジェクトを行っている。また、ウィーン、ベルリン、パリ、アムステルダム、ロンドン、ニューヨーク、東京で定期的にリサイタルを行い、ザルツブルク・モーツァルト週間やザルツブルク音楽祭にも定期的に参加している。

デッカと専属契約を結び、モーツァルトのピアノ・ソナタ全集やシューベルトのピアノ・ソナタ集など幅広いレコーディングを残している。11年にクリーヴランド管を弾き振りしたモーツァルトのピアノ協奏曲のライブ録音で、また17年にドロテア・レシュマンとで録音したアルバム『シューマンとベルク』でグラミー賞を受賞。クリーヴランド管／ブーレーズ指揮シェーンベルクのピアノ協奏曲で、グラモフォン賞(最優秀コンチェルト賞)など4種類の賞を受賞。

長年にわたり若い演奏家の成長を支援し、ボルレッティ・ブイトーニ・トラストの理事を務めている。

05年日本芸術院賞を受賞、文化功労者に選出、09年には大英帝国勲章「デイム」の称号が授与された。作品に対する深い探究と解釈が評価され、高松宮殿下記念世界文化賞(音楽部門)を受賞。サントリーホールのアソシエイト・アーティスト。

マーラー・チェンバー・オーケストラ *Mahler Chamber Orchestra*

マーラー・チェンバー・オーケストラ(MCO)は、1997年に指揮者クラウディオ・アバドと共に、自由で国際的なアンサンブルを目指すという共通のヴィジョンを持って創設された。20ヶ国のトップレベルの音楽家45名からなるMCOのサウンドの特徴は、綿密で自主的な音楽を奏でるメンバーたちの緻密なアンサンブルである。彼らのレパートリーはウィーン古典派から初期ロマン派、そして現代音楽や世界初演作品まで、幅広いジャンルにおよんでいる。

また、音楽の普及、教育、創造に携わる様々な活動に取り組んでおり、2009年にはMCOアカデミーを創設し、次世代への音楽の継承も行っている。

名誉指揮者にダニエル・ハーディングを擁し、またアーティストック・パートナーとして、ピアニストの内田光子、レイフ・オヴェ・アンズネス、ヴァイオリニストのペッカ・クーシスト、指揮者のテオドール・クルレンツイスがMCOと密接な関係を築いている。

19/20シーズンは、毎年恒例となっているルツェルン音楽祭への参加のほか、ルーマニア、ドイツ、オーストリアで内田光子とのツアー、3年にわたる北京国際音楽祭での公演がスタート、フランソワ=ガザヴィエ・ロトとのプロジェクトなどが進行中である。



©Molina Visuals